

63.12
由良地区
公民館

高齢化社会を 生き抜くために

(第四回)

◎ 第三章 在宅要援護、老人に対する福祉サービス等の充実

現状と将来展望の中では、高齢化社会の特徴として、高齢者や孤獨者、介護が必要な人々が増加の一途を辿っています。特に、家庭介護支援制度の整備により、家庭内での介護が主流となっていますが、介護者の負担が大きくなる一方で、被介護者の生活の質が低下する傾向があります。また、扶養親族の減少により、扶養親族の負担が大きくなっています。このため、介護保険制度の充実や、介護職員の待遇改善が求められています。

(2) (1)
「制の化介り介け八市、なワ会政つこ配き」の人高ヶえのり宮も痴約機、護、護て十で寝い! 福をての慮にビ中等齢! き増暮津つ呆も会入者介者い名把た。福祉中多よす必スでと者スレ加し市で性受が院が護はる、握きづく議と心様うる要の生のはもなが、のい老け閉と長者、老こしり人てざい期の女人れて老いさつ付高性も以い人された添齡が多外る。が、たる点が! はて関年化つと、す関施福社宅くをわてり、虚寝たきり! よもとの象徴され、在い係にしたな弱たきり、てお人りな、ど要援護老人。され、たるにたつて、保たき、てお人りな、ど要援護老人。
たケに化そいに對り! よもとの象徴され、在い係にしたな弱たきり、てお人りな、ど要援護老人。
スるすんと病者経も介すんと察院は、濟目護んどさ等、的立疲でをれでこ、ちれい占る。護數年約時、るめ。護を年約時間就病。てお的労弱。

{4}

、宮四津市と、六十歳以上に暮す人口の比率は、昭和六十年度で、七十五歳以上の高齢者を対象とした扶養率は、約六一%である。この原因は、勤務の困難化による別居の増加によるものであるが、この問題は、高齢者の増加とともに、ますます深刻化する傾向にある。

(B)

対する策をすすめるうえで、その実態を把握するには不可欠であるが、その現状や具体的には明らかにされていない。ズバリ老いたりしておられる以上に多くの困難性が認められており、その介護についでは、寝たきりの多くが家庭で介護されている。そこで、その問題行動や精神症状を伴う場合は、弄火など不潔行為、大声の叫聲、徘徊などの特徴的な問題行動を伴う老人をかゝえた場合、地域で福祉課題となつて、その介護の状況は、介護者や家庭の福祉二重性等の問題が複雑に絡み合っている。

一、四部対抗球技大会、八月十四日頃から知り合つたものどうしながらではのヤジの連発！それでいて緊迫の場面もあつたりで暑さもふつとばすような好試合の連続でありました。選手の皆さん、応援の方々、暑い中大変ご苦労さまでした。

幸報

(文責・小松忠衛)

図、立る、開津市題は等発
つ家感こ機設市にに、の生
て族のと能さデおな高問は
いの解に回れイいる齡題、
る身消よ復、・ても者も日
。体、つ訓通サはの人派常
的心て練所、・と口生生
、身、等のビ昭予のす活
精機自各方ス和想増加へ
神能立種法セセ五され
目的サにン十
以な維生トより一年二月、
下労持活ビ給食寿園、「宮
次苦向のス助を提入浴
号の上長、供す浴
軽を弧
減図
を

二三

(2) た指れビ

作と道学ア

出會
展場

日品思にれノ協主会日ア化と力のも
時展いあにに賛催場時ノ祭厚、ごり

十一月六日前九時から午後三時まで
由良の里センター

エレクトロン発表会
十一月三日(祭)
由良小学校 体育館
ピアノ、エレクトロン同好会
由良地区公民館
う子どもたちの眞剣な表情!
晴したい演奏が披露されました。
らされた先生方のご苦労も大変だ

三の丸と盛籠

(1) “もごんご況”ヨ³⁹

ピ文の書き方には大イ由參

次江

成績の発表を記します。

それには、この文化祭の盛りあがりはやはり婦人会の方々によるバザーだつたようですが、うどん、せんざい、余剰野菜、不用品の即売等々大変な盛況で、一日中大勢の人達でにぎわつており、これを計画、実行されました。婦人会の方々のご苦労も大変であつたことと思ひます。

このように、婦人会の皆さんや、多くの方々のご盡力によつて盛会裡に文化祭を終える

ことができましたこと、厚くお礼申し上げます。

報告二

一、寄付
去る十月、小松館長の御母堂が逝去され、
供養にと公民館にご寄付をいただきました。
ここに厚くお礼申しあげますとともに、謹

寄付する十月、小松館長の御母堂が逝去され、
食にと公民館にご寄付をいただきました。
ここに厚くお礼申しあげます。ともに、謹
んで御冥福をお祈り致します。

京都国体協力についてのお礼

京都國体由良地区推進委員会
会長 中西孫兵衛

◎ *** 木村尚三郎
高橋保太郎 文芸春秋
「家庭果樹の剪定」
文芸春秋にみる昭和史

り上がいつそ強固になり、地区民の活力を
由良地域の発展に継続させていたゞきたいと
思います。今後一層のご協力をお願い申し上げます。

「由良の火」のリレー隊に参加して

由良小六年中西康晴

よま京わ式かと い番の
ばし都んがつかっしは、ぼく
れた府なあた、なよじ子く
て、のんりけ言かにめどは
、次はのまどつな木のも
、にたでし火てかとり隊京
はせとドたがい 木レに都
いん キ。つまつゝ選国
。せ宮ドぼきまたんされ炬
「い津キくまたん。やつて火
とが市しはし。脇て火にリ
あのて、たちろな。由良地区
返りはい選。まつて火を
事またま手そつ。おこしました。
をしとせれと、したをたんか
て う、せら時間
名け初い、間前とめを開が
前前とめを開が
にをりに言会か

でこ ょ、ししがと、と、ぎンべて道と、す つは
すと京つ見てま走言お、ごまタ！、に、がご先けず
。は都と送きしりつ願言くし！スすすはんい頭てか
国つたただていわろたのでごつげばいに し
一体かて火。す礼しれう。下走くとまれつバ十か
生のれ終をそとしまてさ
の行たわ宮し、てす
思事けり津て終わ。
いとどまに わた
出し。しも由つし
にて たつ良たま
な由 。て地なし
る良 きい区「た
こ地 んく内と。
と区 ちとを思
で内 よき全つふ
よ うみ部て人
か走 しんリホ会
つた てなレツの
た ちで！と人

し
でつうたし。ぱイ一つ
たれくてがいク入た
次としさ んのが並んで
の思かんもば人走んす。
ふいつのられががりで。
人また人い。見そ走りして
会しでがまし
のたす。応た
チ。練え
ト ム由良より速く
に引の里
きつセいれる
ト ました。
火を

地域活性化に思うこと

投稿

宮本地区 大石伊兵衛

ぐ三 休血筋発予状を動 ヨ降性何の因脳
れ日以養行肉病防動列か ク圧ので高の卒
も防上、ががをに脈記な流ヨ剤タもい第中中
無主よスよ強押なのすい水しはン食人一は風
理はいトくくえる血るとくな勝バベは位最で
に駄事しななる・行と人さい手クル、だ近長
な目づスリりり・③が、間ら・に質、①。特生
ら。く解、④動よ①のす⑤止は老食こにき
ぬ自め消心脚肺脈く心体、寒め必入塩れ増、
よ分。に身腰が硬な臓も歩さな要でのをえ何
うの但役共が文化りがくけをい。も制防たよ
。年し立に丈夫や、丈さ、防。但牛限ぐ寝り
齡どつ若夫に肥心夫る走ぐ④し乳。たたこ
をん・返にな満筋に。れ、イ腹や②めきわ
考なる・る、梗な運、等ラ八卵偏、りい。
え運、⑥・糖塞る動、心イ分な食特に。
、動、⑦全⑤尿な・の掛ラ目どをにな
くで、脳身骨病ど②効掛け、動さ血る
れも、ののやのの冠用るク③物け圧原

、わ必土を名は具三割ゴ話れしよ去むの、さ活
キけ要地作にあの次合ルしたてる市活職れ性
ヤでがをり近る売のでフ合。由と昭町性場る化
デす本儀、いがれゴ、人いそ良、和村化のよと
。当牲米人、行ル昭口がのの由六がと活い言
やゴににを達由きフ和が進後活良十多言性印う
、ルあし作が良が場四増め由性ケニくう化象と
従フるてつ所の好開十加ら良化岳年、ととの何
業場のまで有四調発八しれケをの六ゴ工か言か
員をだで生し七とブくて岳図ふ月ル場常葉将
の建ろ、活て九か一五全い開るも二フ誘いで來
雇設う由を植全いム十國る發とと十場致い、に
用すか良宮林世わで二民よ委言全日開にわ地希
創る私のんし帶れあ年のう員う体付發積れ域望
出こは活でたのてり當十あ会記をのも極てのを
とと疑性いりうい、時入るが事ゴ京同的い活与
かに問化る、ちるゴにに、発がル都様にる性え、
、よにを貴ミニ時ル次一最足掲フ新で取。化
由つ思図重カ五勢フぐ人近し載場聞あり地と期
良てうるなン十で用第のはてさにる組域か待。

る然り。し良り由後由素あ国私との活場生計合一ゴ大こ協設の
でを、由いケま良富良晴りのはし場園は活画は割、ルいで力の住
し破森良姿岳すケ士でら、地勤て合、過環し1しぴフにもさ建民
よ壞林のでに。岳のあし海方務はは市疎境て8かル場宣いせ設が
うしを活大手私は名るいあ都の例目街地上おホ認フが伝わるに利
かて根性切をは由でこ土り市閑がと地で好りトめ場多をれ等対用
、ゴ化に加こ良親と地でに係少鼻か不ま、ルなのいして経し出
雨ルそを保えの住しには由住でなのら便し由でい面兵てい済て來
がフギ図存る共民ま誇、良ん転い先離なく良1よ積庫いる効、る
降場倒るしこ有のれり他ほで勤のとれ山な全0うを県るこ果開ス
るをしとてと財共、をにど来がでいた合い体0に規で。とは発ポ
と造て言行な産有朝持あ縁ま多はつとい、がへし制は一であ企ト
森成谷うきくで財なつりとしくなたこを又ゴクてし乱一ある業ツ
林しをこた、あ産夕てま自た近い感ろ開ールタいて開一り。に施
とた埋とい今りでなおせ然が畿かじが発般フトる市発力、こ資設
ゴ場めでとの宝あ眺りんに、とで多す的場ル。町の所開の金や
ル合、山思までりめま、恵近中思ゴいるにとの由の防と発こ面、
フど縁肌いゝあ宝てす古まく国わル、のゴ化用良面止全企とな文
場うのをまのるでい。里れに、れフ由でルし地の積を国業はど化
のな自削す美由ある丹がた山四る場良生フ、を場の狙一はどで施

にツリ場て散力止面標平染た死れ、のま用管言すが事昭と出、芝
しブ、周、すンの化高地さり滅て殺対せさ理う。心例和土る保生
たさ大辺ズるカ反しのれ飛すお菌象んれす人ゴ配が四砂た水で
場れ氣のルのン対て高のてぶるり剤に。てるもルさあ十流れ力は
合て汚入フで照運、いゴ飲姿たま、はゴいたおフれり八出水が雨
、お染々ア空り動奈山ル料はめす除ナルるめり場飲ま年災害弱水
私り型にト氣のが良地フ水見、。草らフとにまは料す南害をまの
達まのも、が日起県で場にら広大剤ず場言大す芝水。山の受つ浸
はす新影キ汚なき山建適もれ大量等、はう量が生やよ城発けて透
水。型響ヤ染どて添設地影すなに三使農この、を、い村生や多能
害活公しデさはお村すが響、ゴ散十用地と農芝植水天のすす量力
を性害てトれ、りでる不が又ル布種さとに薬生る田氣ゴるくのが
受化といの農農まはの足で農フさ類れ異留やをの用がル虞、雨格
けのしるみ薬薬すゴでしま薬場れにるな意、整で水続フレ又水段
、たてとなガガ。ル水てすでにるも農りし化備緑にく場が、がに
農めクいらスさ雨フ源い。地は農な薬農な学しでもとであ大一違
薬ゴロわざがかあ場汚る最下鳥薬るは薬け肥て美影水発り雨度う
やルトれゴ発んが建染た近水がでと殺取れ料維し響の生、がにう
化フズテル生にり設がめでが鳴虫い虫締ばが持いし不し既続流た
学場アおフし蒸の中表、は汚いがわ剤法な使、とま足たにくれめ

さな前四
れい通方
てでり医
関ほの院
係し桜前
先い伐採
へと採は駅
陳い地に
情う地に
さ方区通
れ々のじる
てが風府
る署を道
件名損改
に運う修
つ動かに
いをら伴
て起伐う
、こら駅

駅前通り整備計画について

石浦 岸田 六右衛門

投 稲 二



場で開ててよたを康齡のけ肥
は述發の、うい作を者長れ料
由べに生毎かとり維が寿ばで汚
良て伴活日。念、持増社なら
にみうに、私じ山す加会になされ
にはまメは目はて田るすに進いた
要たツ抗鼻先る出めなみ事を飲
ががトをのか人てにかつに飲料
な、感先ら達米もで、あり水、
と性メまあい多作力健るます農
私化りするたいりん康今す農
はのツ。ゴ土の、畑で日。薬
思たト以ル地でたにあ、人ガ
いめの上フをはの出れ由生ス
まの面ゴ場手なしてば良八で
すゴにルをばいくミ、で十悩
。ルツフ眺なで暮カ又も年ま
ブい場めしししん健高代な

私溝無のしいとてを土は其の方い影採能伐つるの出、しこ度区地
は、い御てたし工聞木、後意にうをに的りての工席六たのい発区
大道所氣しして事き事くど見問事偲反な、いで事い月。問と展民
賛路は持ままも直ま務わのが題とび対道側るは計た三で題思のの
成、補もうす勿前し所し様出が共愛し路溝所な画し十もをいた一
だ舗植わと。体のたもくにさあに着署に、はくがま日問私筆め人
か道をかいとなこ。予は取れる、を名し路補、はし由題がをいと
らをしりう申しのこ算知りてへ自訴した面植西つた良点初とまし
で整てまのし事計こをり計お民治えれいをし側き。のをめり一て
す備桜すなまで画で他まらり主会らてと整、はり説里正てま度意
。す並がらすあが私へせわま的のれいい備東全示明セし聞しこを見
私の木、のり中は流んれしでこ伐るうし側部さ会ンくいたのを申
もとを西反は残止折用がたたはのら方事では残れで夕把た。問題を上
六い残側対、念さ角さ、か。な問な々で、通しては、握の
十うしはさ桜だれ予れ話に
有計、全れをとた算たはつ
余画そ部て全い事まと進き
年にし残い部うはでい展ま
当はてしる伐氣、つうせし
地、側、方採が何い事ずて

い題いはしよ行枯、土のしは
とので、たりのれ桜木説た六
い処ほ昔。美上でを事明い月
う理し日一しか無全務会と七
のいの方くらく部所へ思日
と仕と思伐機もな伐側もいで

ま承様えい易は良胸での々がしそが方思や区さ駆しでりうくりにす知にまとさなきがも整でつた。終々うはかれは何も、け、住の整す思、くふい汚備整きが私つもかりらて今とや桜戦そ写み説上備。い機古るたい計備、はて思ら美来お後かはに争の生、明署さ伐、能きさみま画さそ京最もいでしらりもなり対に下を学校会名れ採地性良とまゝ中れの都近毎は、くれま第ら現す參をのさる反区がさとすで止た表府府年同こ機るす三な在る加くたり時れか対の加、はのたとの人わ美吉処方に署達つしい理ばう名がていこ方が計を誇、風と法り画さり若景にでのれにいと固問は具た思人、執題な体方う達新すはい化も所がしる、とを、だ住いこ整思充どとみ住と備い分の考たみで

。取が府示も下桜じの能方がせいの愛しぐり通り残道が今をはで点的に、クか駆着たつのい殘念をさ年あ美あになも地夕と前はなて幼、さで見れ度ちしろつ道丹区いの人ど多い桜れなるてかこくうい路後民方う道一、く頃のてりにおらち咲とて由だ式思路倍数のの下いまつり府回き思はあ良けでいをあ々方想でくせけま道る続い伐つので残が見るの々い弁故ん、すに事けま採て玄なる一る積思の出当郷。駅が道がてすにほ闊く事杯とりい見だをのい前廻路あく。反し口、ができて出送け拡姿つ道る番りれ整對いは他決すもすがりでげにま路先号まま備のと、地定。少。あをなた

「もの想う秋
読書の秋にこと寄せて」

山田

暢子

投稿 ◇
高 ◇
三 ◇
 ◇
 ◇
 ◇
 ◇

皆こたきい表は署テりしく努む事計算のしのる明、名ツまく、力還で画に問ま姿積し心運プす機話も境解と訴題す勢りまか動に。能合充を決はえの。でですらになこて的い分よ出る進こ問す私敬参るのなに評り来る次展の題。も意加事事駅よ価美ると題を拙解ど決をさをが前つすしで早い決うし表れ信次通り和き、い。る文當面負ま方まるのやでよまされこがつ子けすのす地完か、りすれとかてになが故。域成に対良がはをけ頂こい、郷発を一決く、双方祈橋くだ愛贊を展待日とし自方りと様わ情成思へちもいた治充、な御らはのうの望早うい会話地つ願ず持立愛区てい前つ場情の、い向てをにスお美なう住う

に一　えお　阿核りさ一な　わ志る　て常もし想悪
 映こん日例工須微てま工僧、たて万がかり賀ばこはになかわく、
 画んま、え田隻、賈け田祇柿く、倍らつの直かの、何いもな言閑
 監なり晴、織つに、なは、て中哉りと何事。人いう居
 督話と々実田瞬、た、田那穢り核、國、でののこ事か
 のも清と生、息沙そ小由、京の作想世怠ろをを時閑活はて
 吉あ々し活、う数口他溝即の、予曲う界情、も想に居よ正不
 村るした上、彈塵で点、一、算家。には生のし
 公。い團無、指、あ、と不潤日万、案
 三 読伊縁、埃る以教可、本倍京の團
 邊語玖の、殺、下わ思正銀…、數伊
 感磨単、那渺分もつ議、行…の值玖
 が氏位、親た、戴を無一を磨
 残をで、六漠厘切と無、訪性万想氏
 つ文あ、徳、てい量極ねに倍いは
 た面れ、模毛いう大、そは、
 。か、虛糊、ね。數恒兆の、町
 らそ、絲い、河、先核兆を
 想の、空逸、に、沙京が、歩
 中で、い日、巡忽教、知、のき
 てもとす そだのでで、あべけ同 によ、るこのろ身ああ教る詠でじ永織
 りこ実楽ん驚うどりる育。む、文いり
 内のはしな謡とな、との こ一字永込
 緒、さ風はいり高い面宗と色をいん
 で方ボ、に、う、学うで教がは二年だ
 「法ヶ面、今推その俗もの出匂度月句
 貯」老白情も測のさ信博分来へ使のに
 金は人さ感解は無がを学野たどう投違
 「症・豊明、念、でのの散こ獄い
 し試候・かに読を反根あみでりと生な
 てみ群いに残者う政底つなはぬな活い
 いるがい、つにた治かたらなるくだ、で罪死る上を、し言七の、
 る必近なもてもに的ら弘すいを、つといもす。図し戦い葉文七い
 の要づあのい十し見く法、か・四た。
 であか、をる分て地つ大文と・十か
 ありない想。伝残か返師学の、八ら
 るといいい わしらすの、推と文こ
 。、為な推 りた投もう芸測、字そ
 予にあ理 、の獄のた術で並だ、

「く註	あやらむたりぬは
てしす	ひもきけうれぬるに
番号順	せゆふふゐそるほ
と	めこのつをほ
に	みえおねわへ
と読む	す
。が	⑦してくなかと
	⑥⑤④③②①

てもとす そだのでで、あべけ同 によ、るこのろ身ああ教る詠でじ永織
 りこ実楽ん驚うどりる育。む、文いり
 内のはしな謡とな、との こ一字永込
 緒、さ風はいり高い面宗と色をいん
 で方ボ、に、う、学うで教がは二年だ
 「法ヶ面、今推その俗もの出匂度月句
 貯」老白情も測のさ信博分来へ使のに
 金は人さ感解は無がを学野たどう投違
 「症・豊明、念、でのの散こ獄い
 し試候・かに読を反根あみでりと生な
 てみ群いに残者う政底つなはぬな活い
 いるがい、つにた治かたらなるくだ、で罪死る上を、し言七の、
 る必近なもてもに的ら弘すいを、つといもす。図し戦い葉文七い
 の要づあのい十し見く法、か・四た。
 であか、をる分て地つ大文と・十か
 ありない想。伝残か返師学の、八ら
 るといいい わしらすの、推と文こ
 。、為な推 りた投もう芸測、字そ
 予にあ理 、の獄のた術で並だ、

由良の歴史と文化財(三)

山椒大夫伝説の周辺 その一

國。守るしのと東示ほ北入地。て。家たくがはうとりとまに説
守勿よ、子な氏せうにい頭安の水こ来豪し再、こ、まはす將經
論でうこ孫つのるが君つ代東旗軍のと族た建永とすあが門節
を、ななのでた子と、臨てと氏をを安しととさ享が奥がり、伝の
号室か、安あ秋孫考そしきしは掲率東ていいれ八出州、ま平説形
し町つ、東つ田でえのてたて、げい氏津ううた年て十福せ將とで
た時か奥氏た氏戦た土い安入北、は軽の人と、い三井ん門結語
人代こ州によの国地た東り條交日後地は物き今ま湊県でがびり
物にとのしう系かでの安氏ま氏易本に方、でのかす日小し日つ歩
もなだ大てに図らし人倍としの舟海はに鎌す最ら。之浜た本いか
あつけ守も作を江よ々氏した領運を、い倉。大五こ本の。將てれ
りては、ら見戸うにのてが地に往十た時奥の五の將羽処軍いて
ま、たや山れま時か親子は、で従来三安代州施十安軍賀がをるい
す陸し、椒てす代。し孫、新あ事し湊東のの主年倍安寺、号こる
が奥か五大いとにたまで古らるし、を氏執安と前康倍縁少しとう
、守で十夫ま、かしれあいし津て、根の權倍しに季康起したをち
こへあ四伝す安けか、る時く軽い関拠こ北氏て、と季を時と示に
れ奥り郡説。倍てに威と代津地ま東地と條を力羽い、見代いし
も州まのがし頼大、勢い、軽方し御にで氏称を賀うとまはうてす
、のす大語か寺名安をう東にへた免しすのしつ寺人いす降こいで

參考書

- の国の人々が荒れると、その靈を祀る岩木山が怒り、これもほの意味の話であつたに違ひないと思つています。

(六三年一月二日・小谷)

「丹後田辺府志」
「東洋文庫版」「説経節」
（平凡社）
「小浜市史」「史料篇」
「寛政重修諸家譜」
新潮日本古典集成版
「説軽集」
平凡社刊「続さんせう大夫考」岩崎武夫著
新潮日本古典集成版
「説軽集」